

令和7年度 第2回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和7年10月29日（水）午前10時00分から正午まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 21名

碧南市社会福祉協議会 中川 英治（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

碧南市民生委員児童委員協議会 榊原 和弘

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 辻 辰憲

愛知県衣浦東部保健所 新美 萌子

愛知県立にしお特別支援学校 早川 浩司

碧南市小中学校校長会 溝口 雅喜

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南市農業委員会 永坂 邦男

スギ製菓株式会社 永坂 峰広

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

刈谷病院 水野 美香

サンフレア 高松 有美

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

WHJ相談支援センターメビア 浅野 将克

ARTIST JAPAN 森脇 友理

(2) 事務局

福祉部長 伊藤 正博

福祉課長 磯貝 浩

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 矢野 友也

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課地域福祉係長 古川 裕隆

地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司

地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳

地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美

地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘

地域福祉課地域福祉係主事 角谷 有花

地域福祉課地域福祉係主事 大野 聖士

地域福祉課地域福祉係主事 田島 十和

4 傍聴者

0人

5 議題

(1) 各作業部会の取組状況について

(2) 日中サービス支援型グループホームの評価について

6 議事の要旨

(1) あいさつ（中川会長）

(2) 議題

ア 各作業部会の取組状況について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：重心、医ケアの障害者が利用できる事業所が碧南にはない。近隣市の事業所を利用している状態である。具体的に結果が出るように考えてほしい。

事務局：市内に事業所がないということは課題として認識している。

B委員：生活介護事業所の開業時間が延長されるような検討をお願いしたい。

事務局：生活介護については、部会で解決策を検討できればと考えている。

イ 日中サービス支援型グループホームの評価について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

C委員：グループホームのセキュリティについて、暗証番号で外部から侵入することが可能か。

事業所：外部から暗証番号を使用して入ることはしていない。オートロックがか

かっている。

D委員:研修は大切である。障害特性についての研修はよく行われる内容である。

障害特性だけではなく、人としての共通性に目を向けたい。

ウ 学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）

4点のまとめをしたい。

- ① 協働。従来、ワンスポットで支援が協働することは行政では難しかった。重層的支援体制整備事業が進むと、様々な支援機関が同時に支援することになる。支援機関同士で学びあうことも可能となる。
- ② ノウハウや情報を知る機会。碧南市にはないが、近隣市にある社会資源もある。部会において社会資源のマップ作りを行うこともよいかもしれない。
- ③ 風通し。風通しは大切である。モニタリング等の機会を通じて、GHの見学を行ってほしい。いろんな場を知ることが大切である。
- ④ 伝える。どのように伝えたら伝えることができるのか。文字だけではなく、表情や動きを伝えていく等、いろいろ検討いただけるとありがたい。

7 その他

事務局が会議資料に基づき、重層的支援体制整備事業の概要と次回の会議予定等を説明した。

以上